2026 年度

講義概要（シラバス）

2 年生

松江総合医療専門学校

看護学科

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	人間関係論	1(30)	2年	前期
担当教員	足立　智昭	実務経験	臨床心理士として勤務経験あり	
授業形態	講義 、演習			
目的	看護には必須の、人と人との関係性の在り方を科学的に理解する。人間を成長し発達しつづける存在として捉え、人を深く理解しようとする視点をもつことを目的とする。			
目標	看護を含めた社会的支援は、援助を必要とする人たちとの密接な関係の上に成り立っており、対人関係の知識とスキルの高さを求められる。多くの他職種との協働を行う際においても、人間関係は避けることのできないものである。 そこで、この授業では実践的な実習を中心におき、自己洞察、他者~~への~~理解への姿勢、表現力、対応力などを学び実践できる能力を養うことを目標とする			

授業内容	回	項目	内容
	1	オリエンテーション	
	2 ～ 14	人間存在と人間関係	自己理解と他者理解
		コミュニケーション	非言語的表現やコミュニケーション
		人間関係向上へのスキル	傾聴 受容と態度 アクティブリスニング
		人間関係への理解	信頼関係の構築にむけて 悲嘆と願い
		保健医療チームの人間関係	リーダーシップ チームワーク コンセンサス グループダイナミクスなど
	15	まとめ	

教科書 参考書	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　第4版（医学書院）
評価方法	レポート提出 体験的な実習が多いため、出席を重視します。

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td colspan="2">カウンセリング理論</td><td>1(30)</td><td>2年</td><td>前期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">大野　晋平</td><td>実務経験</td><td colspan="2">臨床心理士として実務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">自己理解を深め、他者への共感的理解を深めるための実践的方法論を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">こころの世界への探求を通じて、カウンセリングという営みを理解することができる。また、カウンセリングにおける心理学的なものの見方を理解し、現実生活へ活かすことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="11">授業内容</td><td>回</td><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td>1
～
3</td><td colspan="2">カウンセリング概論</td><td colspan="2">1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か？①
3. カウンセリングとは何か？②</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4
5
6
7</td><td colspan="2" rowspan="2">カウンセリングの始まり</td><td colspan="2">4. 枠組み①
5. 枠組み②</td></tr>
<tr><td colspan="2">6. 心理アセスメント①
7. 心理アセスメント②</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5
6
7
8</td><td colspan="2" rowspan="2">カウンセリングの展開</td><td colspan="2">8. 受容、共感、傾聴①
9. 受容、共感、傾聴②</td></tr>
<tr><td colspan="2">10. 転移と逆転移①
11. 転移と逆転移②</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12
13
14
15</td><td colspan="2" rowspan="2">カウンセリングの終わり</td><td colspan="2">12. カウンセリングの効果①
13. カウンセリングの効果②</td></tr>
<tr><td colspan="2">14. 総まとめ①
15. 総まとめ②</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">資料配布</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">平常点とレポートで評価する。</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	英語Ⅱ（医療英語）	1(15)	2年	前期
担当教員	田中　芳文	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	看護・医療の現場に基づく話題を通して，現場で必要とされる語彙や表現を学び，英語を聞く・話す・読むことを中心に英語の基礎学力を養う。また，今後，看護・医療の現場に出たときに英語に触れる機会があることを想定し，必要に応じて適確な英語学習が出来るようにその学習方法を学ぶ。さらに、海外の看護の状況についても学ぶ。			
目標	1. 英語Ⅰでの学習を踏まえ，英語の基礎学力を高める。 2. 看護・医療の現場で必要な語彙や表現を習得する。 3. 英語のコロケーションを中心に英語の基礎的な語彙力の向上を図る。 4. 英語の医療語や海外の看護についての理解を深める。 5. 生涯学習ができるよう，辞書を使いながらの英語学習方法を習得する。			

授業内容	回	項目	内容
	1	Unit 1, 2	授業の進め方（必ず英和辞典持参）・英語の言語活動
	2	Unit 3, 4	英語の言語活動
	3	Unit 5, 6	英語の言語活動
	4	Unit 7, 8	英語の言語活動
	5	Unit 9, 10	英語の言語活動
	6	Unit 11, 12	英語の言語活動
	7	Unit 13, 14	英語の言語活動
	8	Unit 15	英語の言語活動
		※進度に応じて変更もある。	

教科書 参考書	教科書　『看護師たちのリフレクション 医療現場のストーリーで学ぶ英語』(三修社) 『看護師として生きる～自分の選択』(西村書店) 参考書　英和辞典（電子辞書でも可ですが，紙版のほうがよい）
評価方法	下記の基準で総合的に評価する。 1. 出席，毎回の授業の予習・復習，積極的な授業参加（30%） 2. レポート（20%） 3. 期末試験（50%）

<table>
<tr><td>分野</td><td>科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td>保健体育Ⅱ</td><td>1(30)</td><td>2年</td><td>前期
後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>内部教員</td><td>実務経験</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">健康や体力について理解し、運動の実践を通してコミュニケーション能力や、心身の調和的発達を促すとともに、健康で安全な生活を営む能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="4">自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかり、運動の意味や効果を理解し、運動することへの自覚を促進する。
団体競技や実技を通して、他者とのコミュニケーションを深めたり、集団の中での関わり方について学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="16">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="9">実技</td><td colspan="2">企画、計画</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2" rowspan="2">球技大会（2・3年生合同）</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">振り返り</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">計画</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2" rowspan="2">球技大会（2年生クラス対抗）</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="2">振り返り</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2">護身術</td></tr>
<tr><td>10</td><td rowspan="3">体力測定</td><td colspan="2">計画（調べ学習）</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="2">実施（1・2組クロス）</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="2">振り返り</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="3">健康維持のためのプランニング
（フレイル・熱中症予防）</td><td colspan="2">フレイルとは、フレイル予防策（調べ学習）</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="2">パンフレット作成（フレイル予防策）</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="2">運動時の熱中症予防策（調べ学習）</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席状況、受講態度、レポートによる総合評価</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅴ （腎・泌尿、女性生殖器、妊娠・分娩・産褥期の疾患）	1(30)	2年	前期
担当教員	百留　美樹　　京　哲 折出　亜希　皆本　敏子 他	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、腎泌尿器系疾患、女性生殖器系疾患、母性の主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	腎泌尿器系疾患、女性生殖器系疾患、母性の主たる疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1〜5	腎泌尿器系の解剖生理 主な症状・検査	1.構造・機能 2.尿の異常、頻尿、尿失禁、排尿困難、浮腫、電解質異常、疼痛 3.尿検査、腎機能検査、生検、内視鏡検査	外部講師
	治療・処置	1.排尿管理 2.透析療法（血液透析、腹膜透析） 3.腎移植	
	主な疾患の病態生理	1.急性、慢性腎不全 2.糸球体腎炎、腎盂腎炎 3.尿路結石症、前立腺がん	
6〜9	女性生殖器系の解剖生理 主な症状・検査	1.構造・機能 2.出血、帯下、掻痒感、自律神経症状、 3.理学的検査、病理検査、妊娠検査、染色体・遺伝子検査	京 折出
	治療・処置	1.膣洗浄、ダグラス窩穿刺 2.内科的治療 薬物療法、化学療法、放射線療法 3.外科的治療 手術療法	
	主な疾患の病態生理	1.性分化異常、外陰・膣疾患 2.子宮・卵巣・乳腺の疾患 3.不妊・性感染症	
10	乳房の疾患	1．構造・機能　2．検査・症状・治療	百留
11〜15	（母性疾患） 妊娠期の異常	1.ハイリスク妊娠（糖尿病、心疾患、貧血、腎疾患など） 2.妊娠期の感染症 3.妊娠疾患（妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合など） 4.流・早産、子宮外妊娠	皆本
	分娩期の異常	1.産道・娩出力の異常 2.胎児の異常による分娩障害 3.胎児付属物の異常 4.分娩損傷・出血・会陰切開・帝王切開	
	産褥期の異常	1.子宮復古不全 2.産褥期の発熱 3.乳房トラブル 4.精神障害	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器　第16版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　女性生殖器　第16版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　第15版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　第15版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学VI（小児疾患）	1（30）	2年	前期
担当教員	田中　雄二	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、成長発達の中の小児の主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	小児に関わる疾患の病態・治療・処置・検査について理解できる。			

授業内容

回	項目	内容
1	免疫・アレルギー性疾患	アレルギーの分類，食物アレルギー，気管支喘息，アナフィラキシー，原発性免疫不全症，若年性特発性関節炎など
2・3	感染症	ウイルス感染症(麻疹，風疹，伝染性紅斑，水痘，突発性発疹，帯状疱疹，手足口病，プール熱，ムンプス，インフルエンザ)，細菌感染症(百日咳，ブドウ球菌感染症，溶血性レンサ球菌感染症，病原性大腸菌感染症，化膿性髄膜炎，結核)など
4	呼吸器疾患	クループ症候群，急性気管支炎，細気管支炎，肺炎など
5	先天異常	ヒトの染色体，遺伝形式，ダウン症候群，ターナー症候群，クラインフェルター症候群など
6	新生児疾患	新生児仮死，新生児一過性多呼吸，新生児黄疸，脳室内出血，脳室周囲白質軟化症，呼吸窮迫症候群，SGA児など
7	代謝性疾患	新生児マス・スクリーング，糖尿病，低血糖症，アセトン血性嘔吐症など
8	内分泌疾患	中枢性尿崩症，成長ホルモン分泌不全性低身長症，先天性甲状腺機能低下症，先天性副腎過形成症，中枢性思春期早発症など
9	循環器疾患	心室中隔欠損症，ファロー四徴症，川崎病，突然死など
10	消化器疾患	口蓋裂，先天性食道閉鎖症，肥厚性幽門狭窄症，腸重積症，ヒルシュスプルング病，胆道閉鎖症，ウイルス肝炎，急性胃腸炎など
11	血液疾患	鉄欠乏性貧血，血友病，ビタミンK欠乏症，血小板減少性紫斑病，血管性紫斑病など
12	悪性新生物	急性リンパ性白血病，肝芽腫，ウイルムス腫瘍，神経芽腫など
13	腎・泌尿器・生殖器疾患	溶レン菌感染後急性糸球体腎炎，ネフローゼ症候群，尿路感染症など
14・15	神経・筋・神経疾患	水頭症，てんかん，熱性けいれん，脳性麻痺，髄膜炎，急性脳症，ギラン・バレー症候群，筋ジストロフィー症，発達障害，摂食障害など

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　第15版　奈良間美保（医学書院）
成績評価	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	社会福祉	1(30)	2 年	前期
担当教員	岡田昌治　平松晃　稲田政雄 武田英俊　杉谷健　大野博徳 岩本千代　杉村由紀子　堀田聡	実務経験	社会福祉士として実務経験あり	
授業形態	講義			
目的	社会福祉と医療・社会保障の関連、地域福祉・福祉サービスについて学ぶ。			
目標	人がより良い生活を実現するための社会福祉制度・社会保障、社会資源を理解し、その活用方法を学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1	社会保障制度と社会福祉	1．社会保障制度 2．社会福祉の法制度	岡田
2	現代社会の変化と 社会保障・社会福祉の動向	1．現代社会の変化 2．社会保障・社会福祉の動向	
3	医療保障	1．医療保障制度の沿革・構造・体系 2．健康保険と国民健康保険 3．高齢者医療制度　4．保険診療のしくみ 5．公費負担医療　6．国民医療費	平松
4	介護保障	1．介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2．介護保険制度の概要 3．介護保険制度の課題と展望	稲田
5	所得保障	1．所得保障制度の仕組み 2．年金保障制度 3．社会手当 4．労働保険制度	武田
6	公的扶助	1．貧困・低所得問題と公的扶助制度 2．生活保護のしくみ 3．低所得者対策 4．近年の動向	平松
7 ～ 10	社会福祉の分野とサービス 1．高齢者福祉	1．高齢者福祉	杉谷
	2．障害者福祉 （あいサポート研修含む）	2．障害者福祉（あいサポート研修含む）	大野
	3．児童家庭福祉	3．児童家庭福祉	岩本
11 ～ 13	社会福祉実践と医療・看護	1．個別援助技術（ケースワーク） 2．集団援助技術（グループワーク） 3．間接援助技術と関連援助技術 4．社会福祉援助の検討課題	岡田
		5．医療・看護・福祉の連携の重要性 6．社会福祉実践と医療・看護との連携 7．連携の場面とその方法	杉村
14	社会福祉の歴史	1．社会福祉の歴史の見方 2．イギリスの社会福祉の歴史 3．日本の社会福祉の歴史	堀田
15	総括		岡田

教科書 参考書	系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉　第 27 版（医学書院）
評価方法	授業の出欠状況・取り組み姿勢、筆記試験により総合的に評価する。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	臨床看護総論	2(45)	2 年	前期　後期
担当教員	勝部美保子　福井孝子 石倉由紀子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	座学を統合し臨地と結びつける。臨床判断能力を養う。			
目標	健康障害を持つ対象を理解し経過別、主要症状別、治療・処置別等の状態に応じた看護を学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1 ～ 5	主要症状を示す患者の看護	1. 事例による看護実践の展開 2. 呼吸困難を示す対象者への看護(演習) 3. 胸痛を示す対象者への看護(演習)	石倉
6 ～ 9	健康状態の経過に基づく看護 (急性期)	急性期における看護 ・急性期の特徴 ・急性期患者のニーズ ・急性期にある患者への援助 ・術直後の観察(演習)	
10 ～ 13	健康状態の経過に基づく看護 (慢性期)	慢性の経過をたどる患者の看護 ・慢性期の特徴 ・慢性期患者のニーズ ・慢性期にある患者への援助	勝部
14 ～ 17	健康状態の経過に基づく看護 (終末期)	終末期にある患者の看護 ・終末期の特徴 ・終末期患者のニーズ ・終末期にある患者への看護援助 ・臨終間近の観察(演習)	福井
18 ～ 23	治療・処置を受ける患者の看護	1. 輸液療法を受ける対象者の看護 ・輸液療法の特徴 ・輸液療法中の看護援助(演習：寝衣交換) 2. 化学療法を受ける対象者への看護(演習) ・化学療法の特徴 ・化学療法を受ける患者・家族への看護援助 3. 放射線治療を必要とする患者の看護 ・放射線療法とは ・放射線治療をうける患者・家族への看護援助 4. 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 ・創傷とは ・創傷の治癒課程 ・創傷の処置と看護	

教科書	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　第 8 版　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　第 12 版　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　第 10 版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　循環器　第 16 版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　第 16 版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　第 16 版　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　緩和ケア　第 3 版（医学書院）
参考書	
成績評価	課題レポート、パフォーマンス評価 筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)	2(90)	2年	前期
担当教員	吉儀　朋美	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨地実習			
目的	問題解決思考プロセスを用いて、看護過程の展開ができ、対象の日常生活援助ができる。			
目標	1. 対象の全体像をとらえることができる。 2. 対象の日常生活上の看護問題を抽出できる。 3. 抽出した看護問題に対し、達成可能な目標設定ができる。 4. 目標達成のための援助方法を計画できる。 5. 計画した看護を安全・安楽・自立を考慮して実施できる。 6. 実施した看護を振り返り、評価できる。			
内容	1：1) その人に関心をよせて接する。 2) その人に起きている事柄を、ありのままにとらえる。 3) その人のありのままをとらえた事柄からアセスメントし全体像を描く。 2：1) ありのままにとらえた事柄を、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みでアセスメントし記録する。 2) ありのままにとらえた事柄を、既習の知識を活用して解釈・分析する。 ① ライフサイクルの中でどのような特徴があるか ② その人の身体に何が起こっているか（解剖生理・病態生理・検査・治療） ③ その人自身が現在の状況をどのようにとらえているか ④ ①～③がどのように関わり合っているか解釈・分析する 3) 2)をもとに、その人の「よりよい生活」を妨げているものが何であるか考察する。 4) 3)から看護問題を明確にして、優先順位をつける。 3：1) 受け持ち期間中の看護目標を設定する。 2) 看護目標は、評価しやすいように具体的な表現にする。 3) 目標達成を妨げている事柄をあげ、それが解決された状態を予測する。 4：1) 目標達成のための解決策をあげ、その根拠を説明する。 2) 解決策は他の人にも理解できるよう具体的に表現する。 3) 援助の方法は観察・ケア・教育の観点から計画する。 5：1) 看護の実施は計画した方法・手順に従って行う。 2) 看護実施前後のその人の反応をとらえ、意味を考えながら必要な配慮をする。 6：1) 個々の援助の実際をその都度振り返り、看護の実施計画や実施方法が適切であったかどうかを評価する。 ①その時その人への援助方法の選択は適切であったか ②実施上のその人の反応をとらえ、必要な配慮ができたか ③計画した予定日に実施できたか ④期待する結果は得られたか 2) 目標達成状況により、看護過程の妥当性を評価する。			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価（評価表あり）			

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門分野</td><td colspan="2">地域・在宅看護論Ⅰ</td><td>1(30)</td><td>2年</td><td>前期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">勝部美保子</td><td>実務経験</td><td colspan="2">看護師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、対象に応じた在宅での看護を行うために必要な知識・技術・態度を養う。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">病院などの医療機関だけでなく、様々な暮らしの場に看護実践の場があることを理解する。
地域・在宅看護実践の場で、看護師と共に連携して働く医療福祉専門職の役割を理解する。
多職種で連携する中で、看護師に求められる役割について学ぶ。
地域・在宅看護の実践にあたり、知っておくべき法制度を理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="3">内容</td></tr>
<tr><td>1
～
4</td><td>地域・在宅実践の場と連携</td><td colspan="3">さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし
おもな地域・在宅看護実践の場
地域・在宅看護における多職種・多機関連携と協働</td></tr>
<tr><td>5
～
13</td><td>地域・在宅看護に関わる制度とその活用</td><td colspan="3">介護保険・医療保険制度
地域・在宅看護にかかわる医療提供体制
訪問看護の制度
地域保健に関わる法制度
高齢者に関する法制度
障害者・難病に関する法制度
公費負担医療に関する法制度
権利保障に関連する制度</td></tr>
<tr><td>14
・
15</td><td>地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働
地域・在宅看護マネジメント</td><td colspan="3">地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働
医療・福祉・介護関係者との連携・協働
医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働
地域共生社会を実現するために</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　第7版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　第6版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="5">出席状況、授業態度、提出物、レポート内容、学科試験</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	地域・在宅看護論Ⅱ	1(30)	2年	後期
担当教員	木村　悟	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	地域で暮らす全ての人々を理解し、対象者や家族の望みや願いの実現を支えるための看護を提供するために必要な知識・技術・態度を養う。			
目標	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的に見ていくこと、また必要な介助を見極める為の動作分析について理解し、「暮らしている人への看護」を考えることができる。 地域・在宅で生活する療養者に必要な、暮らしの中での看護について理解できる。			

授業内容	回	項目	内容
	1	地域・在宅看護の実践	地域・在宅看護の実践とは
	2 ～ 5	地域・在宅看護の展開	地域・在宅看護における看護過程 地域・在宅看護過程の展開方法
	6 ～ 15	暮らしを支える看護技術	暮らしの場で看護をするための心構え セルフケアを支える対話・コミュニケーション 地域・在宅看護における家族を支える看護 地域・在宅看護における安全をまもる看護 地域における暮らしを支える看護実践 １．療養環境調整 ２．活動・休息 ３．食生活・嚥下 ４．排泄 ５．清潔・衣生活 ６．苦痛の緩和・安楽確保 ７．呼吸・循環 ８．創傷管理 ９．与薬

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　第6版（医学書院）
評価方法	出席状況、提出物、学科試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	地域・在宅看護論Ⅲ	2(45)	2 年	後期
担当教員	内尾二三子　勝部美保子 木村　悟	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	対象に応じた在宅での看護を行うために必要な知識・技術・態度をもとに、さまざまな時期の地域・在宅看護を理解し、看護を展開する。			
目標	在宅における生活支援の方法と技術を理解することができる。 在宅における医療管理を必要とする人とその看護について理解することができる 事例から、対象に応じて必要な看護について考え、目標設定ができる。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1 ～ 5	地域・在宅における時期別の看護	健康な時期の看護 外来受診期における看護 入院時の看護 在宅療養準備期（退院前）の看護 在宅療養移行期の看護 在宅療養安定期の看護 急性増悪期の看護 終末期の看護（グリーフケアを含む） 在宅療養終了期の看護	勝部
	6 ～ 22	地域・在宅看護の事例展開	事例を学ぶにあたって 慢性閉塞性肺疾患（COPD)の療養者の事例展開 ALS の療養者の事例展開 統合失調症の療養者の事例展開	勝部
			認知症高齢者の事例展開	木村
			在宅療養中の子どもと家族の看護・医療的ケア児の事例展開	内尾
	23	地域・在宅看護マネジメント	地域・在宅看護マネジメントとは 多様な場における地域・在宅看護マネジメント	勝部
		地域・在宅看護活動の 創造と展開例	地域・在宅看護活動の創造 「暮らしの保健室」の例 さまざまな地域・在宅看護活動の展開例 地域・在宅看護活動の創造のための考え方	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　第 6 版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児看護学総論　第 15 版（医学書院）
評価方法	出席状況、授業態度、提出物、レポート内容、学科試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学Ⅰ 生命の危機状態にある患者の看護	1（30）	2年	前期
担当教員	石倉　由紀子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	1．生命危機状態にある対象の特徴を理解する。 2．生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3．クリティカルな場における看護師の役割を理解する。 4．くも膜下出血患者の事例を通して、看護過程を展開できる。			

授業内容

回	項目	内容
1	急性期看護の特性	救急看護 救急医療体制
2	ショック状態にある患者の看護	播種性血管内凝固を合併した患者の看護
3 ・ 4	急性の循環機能障害のある患者の看護	急性心筋梗塞 急性脳出血・脳梗塞
5	急性の生体防御機能障害のある患者の看護	①熱傷 ②急性中毒
6 ～ 8	集中治療下での看護	①呼吸管理／人工呼吸器雄着中の患者の看護 ②体液・循環管理／体液バランスト循環のモニタリング ③心臓カテーテル・中心静脈圧 ④心理・精神的支援　家族支援
9 ～ 14	急性の脳・神経機能障害のある患者の看護	くも膜下出血患者の看護 事例展開
15	まとめ	

教科書	系統看護学講座　別巻　救急看護学　第7版　（医学書院）
参考書	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　第12版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　循環器　第16版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　第16版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　消化器　第16版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　血液・造血器　第16版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　第16版　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　第2版　（医学書院）
評価方法	筆記試験　他

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学Ⅱ 周手術期にある患者の看護	2(45)	2年	前期
担当教員	内藤　篤、石倉　由紀子	実務経験	病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	手術療法や麻酔について理解すると共に、周手術期にある対象を総合的に理解し、適応促進に向けた看護の方法を学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1 ～ 5	周手術期看護の基礎	1. 手術侵襲と看護 2. 炎症 3. 腫瘍 4. 麻酔法 5. 酸素療法と機械的人工換気 6. 体液、栄養管理 7. 輸血療法 8. 臓器移植 9. 感染管理	内藤
6	周手術期の考え方	外科看護の流れと看護の要点	石倉
7	周手術過程に応じた看護 術前	ＩＣ 手術オリエンテーション、身体準備、手術室入室	
8	周手術過程に応じた看護 術中	麻酔導入・手術体位の固定、看護師の役割 麻酔覚醒時の援助	
9 ～ 11	周手術過程に応じた看護 術後	術後のモニタリング、術後回復促進ケア、 退院に向けたケア 術後合併症と予防のための看護、自己管理に向けた援助	
12	術式による特徴的な手術看護	呼吸機能障害のある患者の看護 開胸術（肺）・胸腔内ドレナージ	
13		脳・神経障害のある患者の看護 脳室ドレナージ管理	
14		女性生殖器障害のある患者の看護 乳房切除術・甲状腺切除術	
15 ～ 17		消化・吸収機能障害のある患者の看護 開腹術（大腸）、ストーマ造設と管理 開腹術（胃）	
18		整形領域の障害のある患者の看護 脊椎・人工関節の手術、牽引	
19 ～ 23	胃切除を受けた患者の看護	事例検討	

教科書 参考書	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　第12版　(医学書院) 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　第10版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　第16版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　第16版　(医学書院) 系統看護学口座　専門分野　女性・生殖器　第15版　(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　消化器　第16版　(医学書院) 系統看護学口座　専門分野　運動器　第15版　(医学書院)
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学Ⅲ 慢性疾患をかかえる患者の看護	2(45)	2 年	前期・後期
担当教員	勝部美保子　勝間智恵	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	1．慢性疾患をかかえる患者の特徴、看護の役割について理解できる 2．慢性期において医療を必要とする患者の基本的な看護援助方法が理解できる。 3．慢性疾患をかかえる患者を総合的に理解し、予測される問題や解決のための基本的な看護援助方法が理解できる。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1	慢性期の考え方	慢性期にある人の特徴と看護援助 生活行動に障害がある患者の特徴、看護の役割	勝部
2 ～ 5	脳神経機能障害	1．脳神経機能障害における主な症状と看護 ①高次脳機能障害 ②運動機能障害 ③感覚機能障害 2．疾患を持つ患者の看護 ①脳梗塞後遺症患者の看護 ②パーキンソン病患者の看護	勝間
6 ～ 8	呼吸機能障害	呼吸機能障害のある患者の看護 ①　ＣＯＰＤ　②呼吸困難　③チアノーゼ	勝部
9 ～ 11	循環機能障害	循環機能障害のある患者の看護 ①　心不全	
12	肝機能障害	肝機能障害のある患者の看護 ①　肝硬変　②黄疸　③肝性脳症	
13	消化吸収機能障害	消化吸収機能障害のある患者の看護 ①　潰瘍性大腸炎　②クローン病	
14	内分泌機能障害	甲状腺機能障害のある患者の看護	
15	アレルギー・膠原病	アレルギー・膠原病の患者の看護	
16 ～ 18	代謝機能障害	慢性の代謝機能障害にある患者の看護 糖尿病 栄養指導（食品交換表等）	
19 ・ 20	腎機能障害	慢性腎不全を持つ患者の看護	
21 ～ 23	退院指導・患者指導	事例	

教科書	系統看護学講座　専門分野　循環器　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　消化器　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　運動器　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　第 16 版　（医学書院）
参考書	系統看護学講座　専門分野　アレルギー膠原病感染症　第 16 版　（医学書院） 系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　第 14 版　（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学Ⅳ （緩和ケアを必要とする患者の看護）	1(30)	2年	後期
担当教員	福井　孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	人間が存在し生きるという過程を、患者や家族の QOL という視点からとらえ、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学ぶ。			
目標	1. 人間の生と死について考えることができる。 2. 全人的苦痛、家族援助について学び、その看護を理解する。 3. 死を迎えた対象の看護について学び、実践方法を習得する。 4. 基礎的な看とりの看護技術を習得する。 5. 自ら死生観について考えることができる。			

授業内容

回	項目	内容	
1	緩和・終末期看護とは	倫理的課題　チーム医療	福井
2	終末期にある人の理解、全人的苦痛	身体的特徴　全人的苦痛	
3 ・ 4	終末期にある人とその家族の理解 チームアプローチ	1. 死の受容過程 2. 予期的悲嘆　悲嘆 3. 遺族の歩み	
5 ～ 8	終末期にある人の症状と緩和ケア	1. 倦怠感　浮腫　呼吸器症状 消化器症状　精神症状 2. 痛み 3. スピリチュアルケア	
9 ・ 10	がん医療と看護 造血機能障害を持つ患者の看護 感染症を持つ患者の看護	1, 治療　心理的サポート 2, 白血病　悪性リンパ腫 化学療法 3, ＨＩＶ感染患者の看護	
11 ～ 13	臨死期のケア 家族へのケア	1. 臨死期の概念とケアの目標 2. 臨死期における苦痛の緩和 1)がん終末期の身体的変化 2)臨死期の身体症状とケア 3)臨死期における倫理的課題 3. 死亡前後のケア 4. 急変時のケア	
14 ・ 15	全人的苦痛を支える	事例展開	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　第16版　小松浩子（医学書院） 系統看護学講座　別巻　緩和ケア　第3版（医学書院）・がん看護第3版（医学書院）
評価方法	筆記試験、課題レポート

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学実習Ⅰ （急性期・回復期）	2(90)	2.3年	前期・後期
担当教員	石倉　由紀子	実務経験	大学病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨地実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、生命の危機的状況にある対象・回復期にある対象を理解し、健康の回復・増進・自立への援助ができる。			
目標	1. 生命の危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 2. 対象がよりよい状態で治療が受けられ、生命の維持・回復、術後合併症のための援助ができる。 3. 早期離床に向けた日常生活の援助ができる。 4. 回復期の経過をたどる対象の身体的・精神的・社会的問題が理解でき、援助できる。 5. 社会復帰に向けての援助ができる。			
内容	１：1）生命の危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 (1) 疾患の発生のメカニズムと具体的な症状 (2) 手術・麻酔による生体反応（侵襲） (3) 術後のボディイメージ・身体機能の変化の理解 (4)危機状況にある対象及び家族の心理状況 (5) 疾患・手術・治療に対する受け止め方 (6) 術前の検査及び処置の影響 (7) 入院・手術による日常生活の変化 (8) 術後予測される問題 ２：1）術前・治療前の心身の状況を整えるための援助ができる。 (1) 不安の緩和の援助の必要性 (2) 不安の原因追求と援助 (3) 術前・治療前の検査・処置に対する援助 (4) 術後合併症予防の為の術前オリエンテーション・術前訓練の指導 (5) 術前・治療前の身体準備 (6) 手術室への移送と申し送りの見学 2）手術中の患者の安全・安楽な看護について学ぶ。 3）術後・治療後の観察及び援助ができる。 (1) 環境整備と術後ベッドの作成 (2) 一般状態の観察・管理と報告 (3) 術後合併症予防のための援助 ３：1）術後・治療後の回復促進への援助ができる。 (1) 術後・治療後の苦痛を緩和するための援助 (2) 基本的ニーズの充足への援助 (3) 早期離床の意義と目的の理解 (4) 対象に応じた離床の援助 (5) 回復意欲への動機づけ (6) 回復過程に応じた日常生活拡大への援助 (7) 対象・家族に対する不安の援助 ４：1）対象の身体的・精神的・社会的問題が理解でき、援助できる。 (1) 疾病の回復状態 (2) 機能障害の原因・部位・程度 (3) 機能障害によるＡＤＬの影響と評価 (4) 対象及び家族の機能障害の受容過程 (5) ＡＤＬ自立を障害している因子と自立への援助 (6) 機能障害の退院後の生活への援助 2）対象を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。 ５：1）社会生活適応に向けての援助ができる。 (1) 退院後の生活の情報収集 (2) 社会資源の提供 (3) 保健・医療・福祉チームとの連携調整 (4) 対象・家族への生活指導			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価（評価表あり）			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学実習Ⅱ (慢性期)	2(90)	2.3 年	前期・後期
担当教員	勝部　美保子	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨地実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、慢性期にある対象を理解し、セルフケア行動の維持・向上を図り、予防・自立に向けての援助ができる。			
目標	1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる 2. 疾病をコントロールし、悪化させないための援助ができる。 3. 社会復帰に向けセルフケアの確立をめざした援助ができる。			
内容	1：1）患者の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 (1) 病態・症状の理解（疾病の発病・経過・現在の病状・予後） (2) 長期療養に伴う患者の疾病の受容過程 (3) 患者と家族の疾病に対する認識 (4) 症状・障害が及ぼす日常生活への影響 (5) 回復への期待 2）患者を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。 2：1）疾病のコントロールへの援助ができる。 (1) 症状緩和への援助 (2) 長期療養に伴う苦痛の緩和 (3) 検査・治療に伴う援助及び指導 (4) 患者及び家族への精神的援助 3：1）生活の自立への援助ができる。 (1) セルフケア行動の維持と向上に向けた援助 (2) 闘病意欲維持・患者のＱＯＬに向けた援助 (3) 障害の程度に応じた日常生活への援助 (4) 生活習慣の見直しと修正に向けた援助 (5) 自己管理のための家族への日常生活指導 2）社会復帰への準備と支援ができる。 (1) 患者に応じた生活指導ができる (2) 疾病・生活がコントロールできるための家族への協力・調整 (3) 社会資源の提供 (4) 保健・医療・福祉チームとの連絡・調整			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価（評価表あり）			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期

専門分野	成人看護学実習Ⅲ （終末期）	2(90)	2.3 年	前期・後期
担当教員	福井　孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり	
授業形態	臨地実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、終末期にある対象を理解し、その人らしく人生を全うできるよう、死に直面している対象とその家族に対して身体的・心理的な苦痛緩和のための援助ができる。			
目標	1.終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)問題が理解できる。 2.QOL の維持向上を考え、その人らしい生き方への配慮をし、援助ができる。 3.身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）苦痛に対し、安楽への援助ができる。 4.家族への援助ができる。 5.生命の尊厳・自己の死生観を深めることができる。			
内容	1：1）対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 (1) 生体機能の変化の原因と病態 (2) 身体的・精神的症状とそれに伴う苦痛 (3) 生体機能の変化に対する対象家族の受け止め方 (4) QOL の視点から基本的ニーズの充足状態 2）対象を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。 2：1）QOL の維持、向上に向けて援助ができる。 (1) 対象のニーズに対する援助 (2) 日常生活への援助 (3) 死の受容過程に応じた対象・家族への援助 (4) 告知・未告知への支援のあり方 3：1）安楽への援助 (1) 悪化防止・二次的障害予防への援助 (2) ペインコントロールに対する援助 (3) 症状や状態に応じた援助 (4) 精神的苦痛への援助 2）危篤時の援助方法を学ぶ 4：1）家族への調整と支援。 (1) 家族への苦痛を配慮したコミュニケーション技術 (2) 家族の看護活動への働きかけ 5：1）生命の尊厳について考える。 (1) QOL について (2) 倫理について (3) 対象の意思、家族の意思 (4) インフォームドコンセントについて 2）死生観について深める。			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 （評価表あり）			

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門分野</td><td colspan="2">老年看護学Ⅱ
(疾患別・症状別看護)</td><td>2(45)</td><td>2年</td><td>前期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">矢田リエ子</td><td>実務経験</td><td colspan="2">看護師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">老年期にある対象の特徴をふまえて、老年期に罹患しやすい疾病の看護について学ぶ</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">老年期にある健康障害の特徴、診断過程における看護の基礎について学ぶ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="3">内容</td></tr>
<tr><td>1
～
5</td><td>老年期にある人の健康障害の特徴</td><td colspan="3">1. 老年期に見られる疾患
(1)呼吸器系（肺炎）
(2)心・血管系（心不全・高血圧・不整脈）
(3)神経系
（パーキンソン病・頸椎症・認知症）
(4)精神・心理（うつ）
(5)運動器(変形性膝関節症)
(6)腎泌尿器（前立腺肥大）
(7)内分泌・代謝（骨粗鬆症）</td></tr>
<tr><td>6
～
9</td><td>老年期にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護</td><td colspan="3">1. 診断過程における看護
2. 入院を必要とする高齢者の看護
3. 退院時の看護と継続看護
4. 薬物治療を受ける老年期にある人とその家族への援助
5. 手術療法を受ける老年期にある人とその家族への援助</td></tr>
<tr><td>10
～
20</td><td>健康障害のある高齢者の治療･療養の場における看護の実践</td><td colspan="3">1. 慢性疾患をもち病院に入院している高齢者の看護
（看護過程の展開：心不全のある患者の看護）
2. 大腿骨頸部骨折の治療を受ける高齢者の看護
（人工骨頭置換術後の患者の看護）
3. 集中治療下にある高齢者の看護(せん妄)
4. 関節拘縮のある高齢者の看護</td></tr>
<tr><td>21</td><td>介護を必要とする老年期にある人の看護</td><td colspan="3">1. 認知症の看護</td></tr>
<tr><td>22
・
23</td><td>終末期にある高齢者の看護</td><td colspan="3">1. 高齢者の終末期の特徴
2. 高齢者の死亡場所の変化
3. 病院での看取り
4. 施設における看取り
5. 在宅における看取り</td></tr>
<tr><td>教科書

参考書</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第9版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患　第6版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験、レポート</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	老年看護学実習Ⅰ （日常生活援助）	2(90)	2年	前期
担当教員	矢田リエ子	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨地実習			
目的	加齢による身体的・心理的・社会的変化をふまえ、老年期にある対象の日常生活援助ができる。			
目標	1. 老年期にある人の特徴（身体的・精神的・社会的）を理解し、対象に応じたコミュニケーションをとることができる。 2. 様々な環境にある高齢者の生活の場を理解できる。 3. 対象に応じた日常生活援助について理解できる 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割が理解できる。			
内容	1：1）対象及びその家族とコミュニケーションを図り、情報収集できる。 2）身体の特徴を理解できる。 (1) 身体諸器官の機能減退 3）心理・社会面の特徴を理解できる。 (1) 環境がその人に与える影響 (2) 役割喪失による無気力感や孤独感、鬱的傾向、記銘力の低下、見当識障害、経済力の低下、社会や家庭での孤独感 (3) 自己中心的で柔軟な思考がしづらい傾向 4）対象を尊重した接し方、コミュニケーションについて考え実施できる。 2：1）高齢者の生活、生活の場について理解できる。 2）対象に応じた社会資源活用の必要性について理解できる。 3）高齢者の健康と生活の場の関連が理解できる。 4）各施設での生活の場の違いを理解できる。 3：対象に応じた日常生活援助について理解できる。 1）高齢者の日常生活への援助方法を見学、または指導のもと実施する。 (1)障害の程度に応じた日常生活援助（食事、排泄、睡眠、清潔、衣服、私物管理、服薬管理） (2)日常生活の自立への援助 2）高齢者の特徴をもとに必要な援助の方法を考え、どのように実施されているか理解できる。 3）高齢者に必要な日常生活援助を指導者とともに実施し、振り返ることができる。 4：1）各施設・病院で、保健・医療・福祉チームのカンファレンスに参加し、看護師の役割について考えることができる。			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価（評価表あり）			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	小児看護学Ⅰ (経過別・症状別看護)	1(30)	2年	前期・後期
担当教員	木原　公恵	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	健康に障害を持つ小児とその家族について理解し、健全な成長・発達を促すためのアセスメントと援助について学ぶ。 小児における検査・処置についての概要と必要な看護について学ぶ。			
目標	疾病や傷害に対して子どもと家族が示す反応について、健康問題や発達段階にあわせて理解する。 健康障害を持つ小児と家族に必要な看護について、経過別・症状別の特徴と合わせて理解する 健康障害を持つ小児と家族の生活と看護について理解する。			

授業内容	回	項目	内容
	1・2	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護
	3・4	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護
	5・6	子どもにおける疾病の経過と看護	急性期にある子どもと家族の看護 周手術期の子どもと家族の看護
	7	子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期にある子どもの家族と看護
	8	子どもにおける疾病の経過と看護	終末期にある子どもと家族の看護
	9・10	子どものアセスメント	アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント
	11～15	検査・処置を受ける子どもの看護	検査・処置総論（薬物動態含む） 検査・処置各論 与薬（薬用量の決定含む）、輸液管理抑制、検体採取、罨法、清潔、経管栄養、排泄、吸引、吸入、酸素療法

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　第15版　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　第15版　医学書院
評価方法	筆記試験、出席状況、態度、レポート内容・提出状況、

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	小児看護学Ⅱ	2(45)	2年	後期
担当教員	木原公恵　　内尾二三子	実務経験	病院にて勤務経験あり。	
授業形態	講義(グループワーク含む)			
目的	小児が健康を障害されていることの意味と、その援助方法について学ぶ。 小児に特徴的な疾患をとりあげ、事例の展開について学ぶ。			
目標	小児における系統別疾患の看護について理解する。 事例展開を通して、小児における特徴的な疾患の看護について、小児の成長発達の特徴をふまえた看護を理解する。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1	障害のある子どもと家族の看護	障害のある子どもとは、障害のある子どもと家族の特徴、 障害のある子どもと家族への社会的支援	内尾
2	先天異常と看護	染色体異常を持つ子どもと家族の看護 胎内環境により発症する先天異常を持つ子どもと家族の看護	木原
3	子どもの虐待と看護	子どもの虐待、子どもの虐待への対応	
4	子どもの事故・外傷と看護	不慮の事故、おもな事故・外傷と看護	
5 ～ 17	症状を示す子どもの看護 小児の健康障害と看護	・症状を示す子どもの看護 不きげん、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、 ショック、意識障害、痙攣、発熱、嘔吐、下痢、 便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸 ・疾患の理解と看護 1)消化器疾患；肥厚性幽門狭窄症、腸重積、急性胃腸炎など 2)呼吸器疾患；細気管支炎、気管支喘息、肺炎など 3)循環器疾患；ファロー四徴症など 4)腎・泌尿器疾患；ネフローゼ症候群、尿路感染症、腎盂腎炎など 5)脳・神経系；脳腫瘍、てんかん、熱性けいれん 6)アレルギー；アトピー性皮膚炎など 7)内分泌代謝性疾患；糖尿病など 8)感染症；麻疹、風疹、水痘、髄膜炎、流行性耳下腺炎など 9)血液造血器；IgA 血管炎、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病など 10) 悪性新生物；白血病、悪性リンパ腫など	
18 ～ 23	事例展開	小児の看護過程について 急性期疾患に罹患した子どもと家族の看護	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児看護学総論　第15版　奈良間美保他（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　第15版　奈良間美保他（医学書院）
評価方法	筆記試験、出席状況、授業態度、提出物提出状況・内容

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	母性看護学Ⅰ (妊娠・分娩の看護)	1(30)	2年	前期
担当教員	福井孝子	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義・演習			
目的	周産期の母子の生理的経過を学び、母子相互関係の重要性を理解する。			
目標	妊娠・分娩の生理を理解し、妊婦・産婦に適切な看護活動について学ぶ。			

授業内容	回	項目	内容
	1・2	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	1.出生前診断 2.不妊治療
	3・4	正常妊娠の生理	1.妊娠の診断、妊娠の成立、胎児付属物の機能、ホルモンの変化、産科診察 2.妊娠による身体的変化と妊婦の心理 3.胎児の発育、妊娠による家族の変化
	5～7	妊娠期の看護	1.妊婦健康診査 2.妊婦のマイナートラブルとその援助 3.妊婦と胎児のアセスメント 4.妊娠期の保健指導、妊娠健康診査、
	8	妊娠・分娩期の看護技術	1.子宮底・腹囲測定、 2.レオポルド触診法 3.胎児付属物の計測
	9・10	分娩の生理	1.分娩の定義、経過の分類、分娩の３要素 2.分娩の経過、児頭の回旋
	11・12	分娩期の看護	1.分娩第1期のアセスメントと看護 2.分娩第2～4期のアセスメントと看護
	13	胎児の健康のアセスメント	1.胎児心拍数図（ＣＴＧ）と陣痛の判読、ＢＰＳ
	14・15	産婦と家族の看護	新しい家族員を迎える看護

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　第15版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	母性看護学Ⅱ (産褥・新生児の看護)	1(30)	2 年	前期
担当教員	近藤　直美	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	産褥期・新生児期の生理的変化および経過と看護実践を理解する。			
目標	産褥・新生児の生理を理解し、褥婦・新生児に適切な看護活動について学ぶ。　紙上事例を用い、看護過程を展開する。			

授業内容	回	項目	内容
	1 ～ 3	産褥の生理と看護	1. 退行性・進行性変化 2. 褥婦の観察内容と健康状態のアセスメント
	4	産褥の心理・社会的特徴と看護	1. 産褥期の心理・社会的特徴 2. 復古促進の援助と授乳の援助 3. 母子関係・家族関係構築への援助
	5	褥婦の退院指導	家族計画、退院後の生活調整への支援
	6 ～ 8	看護過程	1. ウエルネス思考とは 2. 事例展開
	9	出生直後の新生児の生理	出生直後の新生児の特徴と観察内容
	10	新生児の出生直後の看護	出生直後の処置
	11	新生児の生理	新生児の機能
	12	新生児の看護	1. 新生児の観察内容と健康状態のアセスメント 2. 胎外生活の適応が順調にすすむための援助
	13	新生児の退院時の看護	1. 退院時の診察・評価 2. 2 週間・1 か月健診
	14 ・ 15	新生児看護の技術	1. 出生時の計測、バイタルサイン測定と全身観察 2. 沐浴と臍処置、おむつ交換、ビン哺乳と排気

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　第 15 版（医学書院）
評価方法	筆記試験　看護過程課題

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	母性看護学Ⅲ (妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常および看護)	1(15)	2年	後期
担当教員	福井　孝子	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	妊娠・分娩・産褥・新生児期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。			
目標	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理および正常経過をふまえ、各期の正常からの逸脱とその看護を理解する。			

授業内容	回	項目	内容
	1	妊娠初期・中期の異常と看護	妊娠悪阻　切迫流産　切迫早産
	2	妊娠中期・末期の異常と看護	妊娠糖尿病　妊娠高血圧症候群
	3 ～ 5	分娩期の異常と看護	1. 前置胎盤 2. 常位胎盤早期剥離 3. 分娩誘発 4. 吸引分娩 5. 弛緩出血 6. 帝王切開術
	6	産褥期の異常と看護	1. 子宮復古不全 2. 乳腺炎 3. 産褥うつ病
	7	新生児の異常と看護	高ビリルビン血症　低出生体重児
	8	胎児と新生児の異常と看護	胎児機能不全　児を亡くした褥婦と家族

教科書 参考書	統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　第15版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	精神看護学Ⅰ (患者―看護師関係)	1(30)	2年	前期
担当教員	石倉　清乃　吉儀　朋美 勝間　智恵	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義・演習			
目的	精神看護の対象である人間の基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいてこころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。			
目標	こころの障害をもつ、患者とその家族への援助に必要とされる基礎的知識を学ぶ。 精神科看護において援助を必要とする対象に対して、看護者としての治療的関係を学ぶ。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1～3	精神看護の対象と理解	1.精神看護の目的の理解 2.精神看護の対象の理解 3.精神障害者の理解と考え方	石倉
	4～5	関係の中の人間	1.システムとしての人間関係 2.全体としての家族 3.人間と集団	
	6～8	患者―看護師関係の成り立ち	1.ケアの人間関係 2.コミュニケーション技術 3.患者－看護師関係の成り立ち 1)人間関係を基盤とした看護理論 4.患者－看護師関係における感情体験	
	9～13	自己理解と他者理解	1.患者－看護師関係のアセスメント 2.プロセスレコードの活用 3.プロセスレコードを用いたアセスメントの実際 4.他者との対応における自己の傾向への気づき	吉儀・勝間
	14	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	1.身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス 2.リエゾン精神看護とその活動 3.災害時のメンタルヘルス 4.学校・職場のメンタルヘルスと看護	石倉
	15	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1.看護師の不安と防衛 2.感情労働としての看護 3.看護師の感情ワーク 4.共感疲労の予防	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　第6版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　第6版（医学書院） 精神症状のアセスメントとケアプラン　32の症状とエビデンス集 第1版 川野雅資編著（メヂカルフレンド社）
評価方法	筆記試験、課題レポート、プロセスレコードの取り組み

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	精神看護学Ⅱ (精神障害のある患者の看護)	2(45)	2年	前期・後期
担当教員	石田　亮子　大野　幹男 吉儀　朋美　勝間　知恵	実務経験	精神保健福祉士として教授経験あり 看護師として病院勤務経験あり	
授業形態	講義・演習			
目的	精神看護の対象である人間の基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいてこころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象との関わりを通して、常にこころの健康の保持・回復の援助ができる基礎的能力を養う。			
目標	精神看護の対象である人間を基盤に、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象との関わりをとおして、常に心の健康の保持・増進・回復の援助ができる基礎的能力を養う。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1 ・ 2	回復を支援する	1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン、看護の視点 3. リカバリーを促す環境、方法としてのグループ 4. 回復のためのプログラムとプロセス	吉儀
	3 ～ 6	地域におけるケアと支援	1. 地域における生活支援の方法　(吉儀) 地域活動支援センターの役割　(石田) 2. 地域におけるケアの方法と実際、多職種連携 地域における生活支援の実際(施設見学学習)	吉儀 石田 勝間
	7 ～ 10	入院治療の意味	1. 精神科を受診するということ 2. 治療の器としての病院・病棟 3. 入院中の観察とアセスメント 4. 退院に向けての支援とその実際 5. 家族の支援	大野
		身体をケアする	1. 精神科における身体ケア 2. 精神科における身体を通したケア 4. 精神科の治療に伴う身体のケア 5. 身体合併症のアセスメントとケア 6. 精神科における終末期ケア	
		安全を守る	1. リスクマネジメントの考え方と方法 2. 緊急事態に対処する(自殺・暴力・離院)	
	11 ～ 16	主な精神疾患・症状の看護	1. 統合失調症 (幻覚・妄想・自閉・水中毒・身体拘束・行動制限) 2. うつ病、双極性障害 (睡眠障害・希死念慮・修正型電気けいれん療法) 3. パーソナリティー障害 4. 神経性障害(不安症・強迫性障害・適応障害・PTSD、解離性障害など) 5. アルコール依存症 6. 摂食障害	
	17	小児期における精神障害	1. 児童期に情動障害がみられるおもな障害 2. 発達障害	
	18 ～ 23	統合失調症患者の看護過程	統合失調症患者の看護過程の展開	吉儀

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　第6版(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　第6版(医学書院) 精神症状のアセスメントとケアプラン　32の症状とエビデンス集 第1版 疾患別看護過程の展開　第6版　　学研
評価方法	筆記試験、課題レポート、グループ発表、提出物

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	医療安全	1(30)	2年	前期
担当教員	石飛　映美　矢田　リエ子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義・演習			
目的	医療事故がおこる過程と、それを防止するための対策について理解する。			
目標	安全管理の基本知識を学び、ケア提供に際して安全を確保するための実際を学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1	医療安全を学ぶ意義	1. 医療安全を学ぶ意味とその重要性 2. 看護職としての医療安全の責務	
2・3	事故防止の考え方	1. 事故発生のメカニズム 2. 医療事故の定義・ブウ類 3. 看護事故の構造、事故防止の視点 4. 看護事故防止の考え方	
4～6	診療の補助の事故防止Ⅰ・Ⅱ	1. 注射業務と事故防止 2. 射業務に用いる機器での事故防止 3. 輸血業務と事故防止 4. 内服与薬業務と事故防止 5. 経管栄養業務と事故防止 6. チューブ管理と事故防止	矢田
7・8	療養上の世話の事故防止	1. 転倒転落事故防止 2. 窒息・誤嚥・異食防止 3. 入浴中の事故防止	
9	業務領域を超えた間違いとその発生要因	1. 患者間違い 2. 多重課題	
10	医療安全とコミュニケーション	1. 事故防止のためのコミュニケーション	
11	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての取り組み 2. 事故発生時の対応	
12	医療安全対策の国内外の潮流	1. 我が国の医療安全対策　2. 医療事故等の報告制度	
13・14	看護業務上の危険と防止策	1. 感染管理 2. 医療機器・機材の使用に関わるもの 3. 医療品への曝露 4. 労働形態、作業に伴うもの 5. 患者、同僚および第三者による暴力	石飛
15	看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 3. 習得すべき看護技術のリスクと安全 4. 実習における安全についての指導者の役割 予防と事故発生時の対応	矢田

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　医療安全　第5版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。